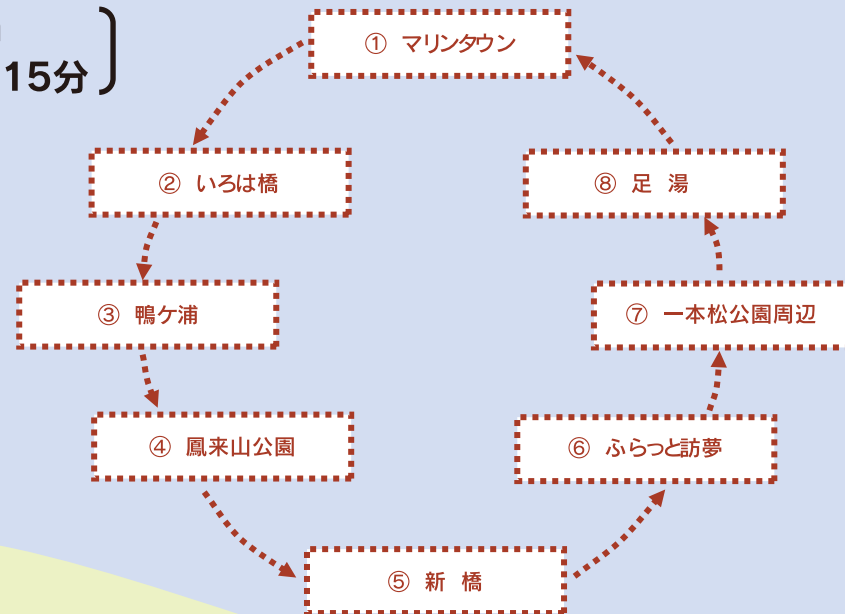


〔 距 離：約9km
所要時間：2時間15分 〕



越中の国司であった大伴家持公はただ一回だけ能登を巡行しています。そのときに輪島近辺で詠んだと想像される和歌が万葉集巻十八に収められています。



石臼を御神体とする朝市の守り神

昭和二十九年に高浜虚子が門人七人と来輪し、大句会が開かれました。この時、輪島の俳人が百二十人も参加したと言われ、その時の記念碑として建立されました。

●● コース内容 ●●

マリントウンを出発して輪島市内の歌碑や句碑神社仏閣を巡ります。輪島港は昔北前船の往来が盛んで、輪島崎北端には給水地や金比羅社や弁天社があります。能登の海岸は角が立った荒岩が多いのですが、その先の鴨ヶ浦の岩は丸く柔和で、一種独特の景観をしています。また海岸の先に立つと一直線の水平線が望め、晴れた日には七ツ島が見え、景色が良いところで特に、海に落ちる夕日がきれい絶好の撮影ポイントとなっています。

笹谷要太郎は輪島出身のホトギス派の俳人です。高浜虚子に師事し多くの句を残しました。

栄福寺の虚子の句と同じ内容の句碑です。

「能登麦屋節」にまつわる悲恋伝説のヒロインおさよを偲んで建てられました。

